

内科学第二講座 臨床腫瘍学分野

【教育】	
1. 到達目標	抗がん剤・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害剤などの薬物を使ってがんの治療を行うとともに、外科治療・放射線治療を組み合わせた集学的治療や緩和治療などの「がん治療」のトータルコーディネーターの役割を担っていくこと。
2. 現状説明	目標を達成するために、人数も増加し頑張っている。今後は如何に行っていくか、問題意識を持って望んでいきたい。
3. 点検・評価	メンバー全体で、頑張っていくつもりである。
4. 目標・改善方策の達成度	目標を目につくところにおき、頑張っていくつもりである。
【研究】	
1. 到達目標	発がん・増殖・転移等のメカニズムを解明し、増殖・転移の様子と薬物の関与を明らかにすること。
2. 現状説明	どのような分子が関わっているのか、分かりやすく言葉に表すことを目標にしている。
3. 点検・評価	今後も説明をしながら、現状の通過点を理解していくことを続けていく。
4. 目標・改善方策の達成度	研究課題として科研費が通り、実験は進んでいる。更に、目標を達成していく所である。
【診療】	
1. 到達目標	患者さまに、良いと思われる診療を行うこと。
2. 現状説明	患者さまが、満足している点・不満な点が、混じっていると考える。
3. 点検・評価	患者さまの満足度を評価していき、悪い点を洗い出す必要がある。
4. 目標・改善方策の達成度	それぞれの医師が、満足のいく診療を心がけること。
【社会貢献】	
1. 到達目標	がんと付き合う姿勢、がん終末期治療のあり方など、市民との講演会などを通して問うていく。
2. 現状説明	停滞している。以前は盛んにおこなった事を思い出したい。
3. 点検・評価	市民講座など、聞き取り調査を参考にしたい。
4. 目標・改善方策の達成度	少しずつ改善をしたいが、まだまだ不十分であると思われる。

内科学第二講座 臨床腫瘍学分野講座

業績分類	査読	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・ JIF QUARTILE (2021)	刊行状況	研究情報備考
1. 論文	(1)原著	査読有 Yoshioka T, Takahashi M, Sakamoto Y, Okita A, Fukui T, Murakasa Y, Shindo Y, Imai H, Ohori H, Shiota H, Chiba N, (Ito) Sasahara Y, Nomura T, Fukusihima N, Yamaguchi T, Shimodaira H, Ishioka C.	Cisplatin Plus Capecitabine After Adjuvant S-1 in Metastatic Gastric Cancer: A Phase II T-CORE1102 Trial	Anticancer Res. 2022 Apr;42(4):2009-2015 PMID: 35347022	IF= 2.435, Q4		B
1. 論文	(1)原著	査読有 Nakagawa-Saito Y, Saitoh S, Mitobe Y, Sugai A, Togashi K, Suzuki S, Kitanaka C, Okada M.	* HDAC Class I Inhibitor Domatinostat Preferentially Targets Glioma Stem Cells over Their Differentiated Progeny	Int J Mol Sci. 2022 Jul; 23(15):8084 PMID: 35897656	IF= 6.208, Q1		
1. 論文	(1)原著	査読有 Okada M, Nakagawa-Saito Y, Mitobe Y, Sugai A, Togashi K, Suzuki S, Kitanaka C.	* Inhibition of the Phospholipase Cε-c-Jun N-Terminal Kinase Axis Suppresses Glioma Stem Cell Properties	Int J Mol Sci. 2022 Aug 7;23(15):8785 PMID: 35955917	IF= 6.208, Q1		
1. 論文	(1)原著	査読有 Takahashi K, Nakamura S, Watanabe K, Sakaguchi M, Narimatsu H.	Availability of Financial and Medical Resources for Screening Providers and Its Impact on Cancer Screening Uptake and Intervention Programs	Int J Environ Res Public Health. 2022 Sep 12;19(18):11477 PMID: 36141750	IF= 4.614, Q2		B
1. 論文	(1)原著	査読有 Mitobe Y, Nakagawa-Saito Y, Togashi K, Suzuki S, Sugai A, Matsuda KI, Sonoda Y, Kitanaka C, Okada M.	* CEP-1347 Targets MDM4 Protein Expression to Activate p53 and Inhibit the Growth of Glioma Cells.	Anticancer Res. 2022 Oct;42(10):4727-4733 PMID: 36192008	IF= 2.435, Q4		
1. 論文	(1)原著	査読有 Nakagawa-Saito Y, Mitobe Y, Togashi K, Suzuki S, Sugai A, Kitanaka C, Okada M.	* Givinostat Inhibition of Sp1-dependent MGMT Expression Sensitizes Glioma Stem Cells to Temozolomide.	Anticancer Res. 2023 Mar;43(3):1131-1138 PMID: 36854532	IF= 2.435, Q4		
1. 論文	(1)原著	査読有 Shiota H, Komine K, Takahashi M, Takahashi S, Miyuchi E, Niizuma H, Tada H, Shimada M, Niihori, Aoki Y, Sugiyama I, Kawamura M, Yasuda J, Suzuki S, Iwaya T, Saito M, Saito T, Shibata H, Furukawa T, Ishioka C.	Clinical decisions by the molecular tumor board on comprehensive genomic profiling tests in Japan: A retrospective observational study	Cancer med. 2023 Mar;12(5): 6170-6181 PMID: 36251535	IF= 4.711, Q2		B
1. 論文	(4)著書	査読有 加藤花保, 鈴木修平, 佐藤千穂, 菅野恵, 天野吾郎, 今野亜希湖, 堤誠司, 鈴木民夫	* 包括的ゲノムプロファイル検査における二次的所見の検出遺伝子と表現型の一貫性の検討	遺伝性腫瘍. 日本遺伝性腫瘍学会, 2023年2月:80-84			B
2. 学会報告	(1)国際学会	iii 一般演題	査読有 Matoba R, Iijima H, Sakamoto Y, Kawabata R, Ishiguro A, Akamaru Y, Kito Y, Yabusaki H, Matsuyama J, Takahashi M, Makiyama A, Suzuki T, Tsuda M, Yasui H, Hihara J, Masuzawa T, Okuda H, Kawada J, Suzuki S, Kawakami H, Eguchi Nakajima T, Muro K, Ichikawa W, Fujii M, Sunakawa Y.	Molecular characteristics of gut microbiota in patients with gastric cancer: The DELIVER trial (JACCRO GC-08)	Proceedings: AACR Annual Meeting 2022; April 8-13, 2022; New Orleans, LA		B
2. 学会報告	(2)国内学会	iii 一般演題	査読有 鈴木修平, 鏡優子, 齋藤弘毅, 神田悟, 佐野町友美, 邨野千尋, 高橋鴻志, 鈴木尚樹, 吉岡孝志	* がんゲノム検査での偽陰性が懸念される症例への対応と、その後方視的検討	第119回日本内科学会総会・講演会, 京都 (WEB); 2022年4月		
2. 学会報告	(2)国内学会	iii 一般演題	査読有 齋藤弘毅, 鈴木修平, 神田悟, 佐野町友美, 邨野千尋, 鈴木尚樹, 吉岡孝志	当科における胸腺癌へのレンパチニブの導入例	第119回日本内科学会総会・講演会, 京都 (WEB); 2022年4月		
2. 学会報告	(2)国内学会	iii 一般演題	査読有 芦川直輝, 鈴木修平, 齋藤弘毅, 神田悟, 邨野千尋, 鈴木尚樹, 吉岡孝志	* 化学療法中の進行がん患者と家族のコミュニケーションの現状と検討	第119回日本内科学会総会・講演会 医学生・研修医の日本内科学会 ことはじめ 2022 京都, 京都 (WEB); 2022年4月		

業績分類	査読	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・ JIF QUARTILE (2021)	刊行状況	研究情報備考
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題	査読有 竹田伊織, 鈴木修平, 齋藤弘毅, 神田悟, 邨野千尋, 鈴木尚樹, 吉岡孝志	* 当科で化学療法を施行した切除不能進行軟部肉腫例の後方視的予後解析～脂肪肉腫の長期生存の症例経験を通じて～	第119回日本内科学会総会・講演会 医学生・研修医の日本内科学会 こととはじめ 2022 京都, 京都 (WEB) ; 2022年4月		
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題	査読有 加藤花保, 鈴木修平, 菅野秀典, 今野亜希湖, 鈴木民夫	* 多重癌からリンチ症候群が疑われEPCAM遺伝子・MSH遺伝子欠失が検出された一例	第28回日本遺伝性腫瘍学会学術集会, 岡山 (WEB) ; 2022年6月		
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題	査読有 邨野千尋, 山川達志, 守屋かおり, 菊池和彦, 佐藤由子, 安藤美紀, 鈴木光, 小川貴恵, 安堵 愛, 後藤香奈湖, 佐藤志津, 高橋美砂希, 中矢りえ, 中村龍太郎, 神谷浩平, 川並 透	神経難病緩和ケアチーム発足から1年の現状と課題	第27回 日本緩和医療学会学術大会, 神戸; 2022年7月		B
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題	査読有 竹田伊織, 鈴木修平, 齋藤陽介, 齋藤弘毅, 神田悟, 邨野千尋, 鈴木尚樹, 高橋鴻志, 吉岡孝志	* Retrospective Study of Chemo-response in Sarcoma Based on Cancer Genomic Testing - Expert Panel cases and C-CAT UDB がんゲノムプロファイリング検査結果から見た切除不能肉腫における化学療法反応性の後方視的検討～当院エキスパートパネル検討例とC-CAT利活用データベースより～	第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡; 2023年3月		
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題	査読有 芦川直輝, 鈴木修平, 齋藤陽介, 齋藤弘毅, 神田悟, 邨野千尋, 鈴木尚樹, 高橋鴻志, 吉岡孝志	* Retrospective study of pancreatic cancer cases based on cancer genomic test - our expert panel cases and C-CAT database がんゲノム検査に基づく膵臓がん症例のレトロスペクティブ研究-山形大学のエキスパートパネル症例とC-CATデータベースを用いて	第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡; 2023年3月		
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題	査読有 城田英和, 小峰啓吾, 高橋雅信, 高橋信, 宮内栄作, 新妻秀剛, 多田寛, 島田宗昭, 新堀哲也, 青木洋子, 杉山育子, 川村真亜子, 安田純, 鈴木修平, 岩谷岳, 齋藤元伸, 柴田浩行, 古川徹, 石岡千加史	Clinical decisions by the Molecular Tumor Board on comprehensive genomic profiling tests in Japan: A retrospective observational study 東北大学病院エキスパートパネルにおける1003人のがん遺伝子パネル検査の治療提案	第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡; 2023年3月		B
2. 学会報告	(2) 国内学会	iii 一般演題	査読有 鈴木修平, 齋藤陽介, 齋藤弘毅, 神田悟, 邨野千尋, 鈴木尚樹, 高橋鴻志, 吉岡孝志	A case of pancreatic cancer with PTH-rP elevation and hypercalcemia that responded to systemic chemotherapy Parathyroid hormone-related Peptide産生および高カルシウム血症を認めたが化学療法により臨床的奏効を得た膵癌の1治療例	第20回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡; 2023年3月		
2. 学会報告	(3) 国内地方会	iii 一般演題	査読有 齋藤陽介, 鈴木修平, 佐藤由理, 齋藤弘毅, 邨野千尋, 神田悟, 鈴木尚樹, 吉岡孝志	* Cowden症候群における重複癌の1例	第227回日本内科学会東北地方会, 山形 (WEB) ; 2022年9月		
2. 学会報告	(3) 国内地方会	iii 一般演題	査読有 佐藤由理, 鈴木修平, 齋藤陽介, 齋藤弘毅, 邨野千尋, 神田悟, 鈴木尚樹, 吉岡孝志	* 抗HER2治療が著効した免疫染色とがんゲノムプロファイリング検査の結果に乖離を認めた肝臓癌と膵癌が混合したAFP陽性胃癌の1例	第227回日本内科学会東北地方会, 山形 (WEB) ; 2022年9月		
2. 学会報告	(4) 研究会	iii 一般演題	査読無 岡田雅司, 中川-斉藤優梨花, 水戸部祐太, 須貝明日香, 富樫敬太, 鈴木修平, 北中千史	* PLCε-JNK経路阻害はグリオーマ肝細胞性を抑制する	実験動物セミナー第33回研究成果発表会, 山形大学医学部, 2022年12月		
5. 学会等での受賞			鈴木修平	第35回内科学会奨励賞	第118回日本内科学会講演会, 東京; 2022年4月		
6. その他			鈴木修平, 久保田祐子	* がん医療を多角的に学ぼう～患者さん・医療者・分子の目線から～	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI (研究成果の社会還元・普及事業), 山形市; 2022年7月		